

《担当者名》山田 律子[rich@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

認知症初期の支援からエンドオブライフ・ケアに至るまで、認知症高齢者と家族が抱える複合的な諸課題について対応するための高度看護実践および多職種協働によりケアを拓く方法を習得する。このため、認知症の疫学やグローバルな認知症高齢者制度・施策の動向、認知症の最新の診断方法およびcureとcareを統合した支援の実際、認知症高齢者へのケアスキルや「もてる力」を高めるための支援方法を学び、エンドオブライフ・ケアも見据えた認知症高齢者とその家族の生活の質を向上するための多職種協働による包括的ケアを提供するために必要な実践力を身につける。

【学修目標】

- 1) 認知症の疫学とグローバルな制度・施策の動向と課題について説明できる。
- 2) 認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームのフィールドワークを通して、認知症の最新の診断方法と診断プロセス、認知症初期における老人看護専門看護師(GCNS)によるcureとcareの統合した高度看護実践について説明できる。
- 3) 認知症高齢者へのコミュニケーションスキルや生活・療養環境の調整に関するケアスキルを身につけることができる。
- 4) 認知症高齢者の「もてる力」に着眼して、生活史や価値観および認知症の病態に配慮した生活・療養環境を調整できる。
- 5) 複合的な諸課題をもつ認知症高齢者とその家族に、多職種協働による包括的ケアを提供するためのプランを立案できる。
- 6) 認知症高齢者が最期までその人らしく生きることを支えるために、終生期にある認知症高齢者とその家族へのエンドオブライフ・ケアについて自己の考えを述べると共に、多職種協働によるケアプランを立案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	認知症の疫学と制度・施策	認知症の定義と疫学、グローバルな視点からの認知症高齢者制度・施策(オレンジプランを含む)の動向と課題、認知症ケア加算	山田
2	認知症看護の原理・原則	認知症看護の原理・原則、パーソンセンタードケアの理論と看護実践、自律と自立への支援、意思決定支援、認知症看護における倫理	山田
3	認知症の最新の診断方法およびcureとcareの統合支援	1)認知症疾患医療センターにおける最新の診断方法と予防・治療の実際：軽度認知障害(MCI)、認知症の原因疾患の鑑別診断(画像診断を含む)、認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)と予防・治療	内海久美子(特別講師) 福田智子(特別講師) 山田
4	認知症の最新の診断方法およびcureとcareの統合支援	2)認知症初期集中支援チームの活動の実際を学ぶ：早期対応・診断とフォロー体制(地域連携体制を含む)、認知症初期におけるGENSによるcureとcareを統合した高度看護実践	内海久美子(特別講師) 福田智子(特別講師) 山田
5	認知症高齢者へのケアスキル	1)認知症高齢者とのコミュニケーションスキル：コミュニケーションの原則、認知症の原因疾患や重症度を考慮したコミュニケーションの実際	山田
6	認知症高齢者へのケアスキル	2)認知症高齢者の生活環境の調整：認知症の原因疾患や重症度を考慮した環境調整、PEAPによる環境指針を参考にした生活環境の調整の実際(DVD使用)	山田
7	認知症高齢者へのケアスキル	3)認知症高齢者の療養環境の調整：急性期医療における身体合併症をもつ認知症高齢者のリスクマネジメントと生活機能の回復を促進する療養環境の調整の実際	山田
8	認知症高齢者のもてる力を高める生活支援	1)認知症高齢者の良質な睡眠覚醒リズムを整えるための看護実践：認知症の病態と睡眠障害との関係を踏まえたアセスメントと環境調整(光環境の調整を含む)	山田
9	認知症高齢者のもてる力を高める生活支援	2)認知症高齢者の食べる喜びを支える看護実践：認知症の原因疾患や重症度を考慮した摂食・咀嚼・嚥下機能を高める支援、食形態・姿勢の調整、注意障害に対する環境調整	山田
10	認知症高齢者のもてる力を高める生活支援	3)心地良い入浴のための認知症高齢者への看護実践：認知症高齢者の入浴支援における課題と入浴プロセスを踏まえた環境調整、スタッフ教育	山田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	認知症高齢者のもてる力を高める生活支援	4) 尊厳ある排泄のための認知症高齢者への看護実践：認知症高齢者に多い便秘、頻尿、尿失禁とBPSDとの関係、排泄障害の的確なアセスメントに基づくcureとcareを統合した支援	大久保抄織(特別講師) 山田
12	認知症高齢者と家族への地域包括ケア	認知症高齢者と家族への当事者団体を含む多様なソーシャルサポートの活用法と、地域包括ケアの実際と多職種協働によってケアを拓くための方法	武田純子(特別講師) 山田
13	認知症高齢者と家族への地域包括ケア	複合的な諸課題をもつ認知症高齢者と介護家族に関する事例に対して、生活の質の向上を目指した社会資源の活用・開発も含め多職種協働により包括的ケアを提供するための事例検討	三浦直子(特別講師) 山田
14	エンドオブライフ・ケア	人生の最終段階としての認知症の終末期の捉え方とプロセスの特徴、グループホームや介護老人保健施設における認知症高齢者とその家族へのエンドオブライフ・ケアの実際(DVD映像)	武田純子(特別講師) 山田
15	エンドオブライフ・ケア	終末期にある認知症高齢者とその家族の事例に対して、多職種協働によるエンドオブライフ・ケアを提供するためのケアプランを立案	山田

#### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

演習の実施状況とスキル到達度(50%)、討議への参加(20%)、課題レポート(30%)によって総合的に評価する。

#### 【教科書】

山田律子・内ヶ島伸也(2020). 生活機能からみた老年看護過程 第4版. 医学書院.  
北川公子(2017). 系統看護学講座 専門分野 老年看護学. 第9版, 医学書院.  
大塚俊男・本間昭(1991). 高齢者のための知的機能検査の手引き. ワールドプランニング.  
日本神経学会(監修)(2017). 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院.

#### 【参考書】

中島紀恵子(監修)(2017). 認知症のこころの看護. 第3版. 医歯薬出版株式会社.  
クリスティーン・ボーデン(2003). 私は誰になっていくの? アルツハイマー病者からみた世界. クリエイツかもがわ.  
クリスティーン・ブライデン(2012). 私は私になっていく - 認知症とダンスを. クリエイツかもがわ.  
池田 学(編)(2012). 認知症 臨床の最前線. 医歯薬出版株式会社.  
鈴木隆雄(監修)(2015). 基礎からわかる軽度認知障害(MCI) - 効果的な認知症予防を目指して. 医学書院.  
高山成子(編)(2014). 認知症の人の生活行動を支える看護: エビデンスに基づいた看護プロトコル. 歯科薬出版株式会社.  
トム・キットウッド/高橋誠一(訳)(2005). 認知症のパーソンセンタードケア 新しいケアの文化へ. 筒井書房.  
児玉桂子他(編)(2009). 認知症高齢者が安心できるケア環境づくり 実践に役立つ環境評価と整備手法. 彰国社.

#### 【学修の準備】

- 1) 1~2回目までは関連図書を読み、授業に臨むこと。
- 2) 3~4回目までに指定資料を熟読の上、フィールドワークに臨み、終了後に課題レポートを提出すること。

#### 【学修方法】

1~2回目に講義と討議、3~4回目は認知症疾患医療センターと認知症初期集中支援チームでのフィールドワークで医師とGCNSの連携も含めて最新の認知症医療について学ぶ。5~7回目はロールプレイや映像学習、ブレインストーミングの演習形式で学び、8~11回目は実際に検査・測定などの演習も含めながら、もてる力を引き出す生活支援の方法を学ぶ。12~15回目は、映像等も活用した導入講義の後、実践事例に対するケアプランを立案する。

#### 【実務経験】

山田律子(看護師)、内海久美子(認知症専門医)、福田智子(認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師)、大久保抄織(老人看護専門看護師)、三浦直子(老人看護専門看護師)、武田純子(看護師)

#### 【実務経験を活かした教育内容】

認知症医療・ケアの専門的な実務経験を活かして、認知症初期支援からエンドオブライフ・ケアに至るまで、認知症高齢者と家族が抱える複合的な諸課題に対応するための高度看護実践および多職種協働によりケアを拓く方法を実践的に教育する。